



市民の切実な声とどけ くらし最優先の市政めざしてがんばっています

みなさんといっしょに 実現しました

- ◎小学校1年生で35人学級。さらに2年生、3年生へと拡大を求めています。
- ◎保育所待機児童の解消を求め、新しい保育所ができました。
- ◎市民病院の救急外来室を3室にし、患者待合場所が改善されました。
- ◎市民病院で、新たに日帰りドッグができました。また、女性専用外来も設置されました。
- ◎同和行政・教育の終結を求め、12年ぶりに審議会が開催。一歩前進です。



子どもの人間形成を助ける教育を

佐世保市で起きた事件は、命を育むべき学校で子供が命を落とすという痛ましい事件。本当に心が痛みます。

これらの事件の原因のひとつに、子どもの自己肯定感情が深く傷つけられているという問題があると思います。

子どもたちが、自分が人間として本当に大切にされていると実感でき、自らの存在を肯定的なものとして受け止められるような条件を家庭でも、地域でも、学校でも作る必要があります。

私は、子どもが自由に意見を述べることができる権利を保障し、その意見を尊重し、子どもの社会参加を保障する取り組みが必要であると質しました。



安心できる介護保険制度を

政府は介護保険の見直しで、要支援、要介護度1の人のサービス削減や施設入所者の利用料大幅値上げなど企てていますが、これは必要と認定されたこれまでのサービスの受けられなくなるという大改悪であり、許すことにはできません。

私は、利用者の実態を無視した伊丹市の「見直し」追従の姿勢を質すとともに、誰もが必要な介護を受けることができるように、政府に対して保険料・利用料の低所得者対策と施設整備における国の責任を強く要望することを求めました。



買い物が便利で住みよいまちを

身近なところで買い物ができるまちは、これからの高齢社会にとって欠かせません。また、中心市街地の活性化はまちの活力になります。

ところがJR伊丹駅東側にできた超大型店は、身近な商店をなくし、中心市街地を空洞化しています。そして伊丹市の活性化策は、大型店からいかに人を呼ぶのが中心になっています。

私は、この大型店を事実上誘致した市長の責任を質すとともに、周辺の商店への援助とともに、中心市街地の考え方は、市民の生活や交流のまちの中心軸としてとらえ、賑わいと活力あるまちづくりを進めることを求めました。



くらしを直撃！増税に反対

市民税の二〇〇六年課税から、老年者控除(48万円)が廃止され、公的年金控除の削減とともに高齢者に大幅な増税となります。伊丹市での増税額は約1億円で、このことは国民健康保険税にも影響し、その金額も1億円となります。

私は、この増税は高齢者の生活不安を広げ、消費する力を弱めるものであるとして反対討論を行いました。

しかし日本共産党以外の議員全員が賛成し、可決されました。

さらに政府は、「景気対策」として行っていた定率減税も廃止。くらしを破壊する増税を強行しました。断じて許すことはできません。

